

FF 外から失礼します。 工学系大学生の考える SNS マナー

越智徹†

概要：筆者が担当する授業「情報社会と倫理」において、Twitter における「マナー」についてアンケート調査を行った。このアンケート調査では、日本特有のマナーとしてよく話題に挙げられる「FF 外から失礼します」「無許可 RT 禁止」についてどう思うかについて学生の意見を求めたところ、「FF 外から失礼します、無許可 RT 禁止は守るべきである」と回答した学生は全体の 10%であり、理由として「その行いが他者を不快にすることや、自分が不快になるかもしれないようなことは自重すべき」「日本人の性質として最低限のマナーを守ろうとしている所から出てきたものなので遵守すべき」などが挙げられた。本稿ではこれらの意見から、現実社会とネット社会を地続きとして考える地続き型ユーザを提案し、これらユーザの違いについて考察する。

キーワード：SNS, Twitter, ネット社会, ネットマナー, 情報倫理

“FF gaikara sitsureishimasu” What Do Engineering College Students Think About SNS?

TORU OCHI†

1. 学生と SNS

スマートフォンで多く利用されているサービスに SNS (Social Networking Service) がある。ネットワークを利用した個人間のつながりのサービスが SNS であり、広義としては古くから利用されてきた電子掲示板やブログなどが、狭義としてはコミュニティ型の会員制サービスが該当する。例えば、平成 29 年版情報通信白書[1]では、LINE, Facebook, Twitter, mixi, Mobage, GREE, Google+, YouTube, ニコニコ動画, Vine, Instagram の 11 サービスを SNS の利用調査対象としている。この調査における上位 4 サービスの結果を表 1 に示す。なお、調査は 2016 年に行われ、回答者数は 10 代が 140 人、20 代が 217 人とそれほど多いわけではない。

表 1 10 代、20 代の SNS 利用率

	YouTube	LINE	Twitter	Facebook
10 代	84.3	79.3	61.4	18.6
20 代	92.2	96.3	59.9	54.8

(単位 %)

情報通信白書よりも大規模に実施された調査として、MMD 研究所とマカフィー株式会社の共同実施による高校生、大学生、社会人 20 代・30 代の SNS 利用に関する意識調査[2]を挙げる。この調査では、15 歳から 39 歳の男女 4575 人（高校生 634 人、大学生 1043 人、社会人 20 代 1638 人、社会人 30 代 1260 人）を対象としている。この調査では、

高校生 Twitter 利用者の 52.7%は実名利用、実名利用している高校生のうち 41.1%は「すべての人」に情報を公開している、という結果が得られている。また、同じく大学生の実名利用は 44.5%、さらにこのうち 35.2%の大学生がすべての人に情報を公開しているとしている。各種 SNS サービスを実名で利用することの是非についてはここでは論じないが、日本では SNS には負のイメージもあり、特に記憶に新しいのが 2013 年からマスコミでも大きく取り上げられるようになった、Twitter 上での様々な炎上事件である。

2013 年 4 月に大阪のテーマパーク USJ で、ジェットコースターから身を乗り出し運行を止めたり、ボートをわざと転覆させて謝罪を求めたりなどの迷惑行為を行ったことを Twitter に書き込み炎上した事例が、おそらくネットニュースやマスコミに大きく取り上げられたものとしての初出である。また、同年 7 月には、コンビニエンスチェーンのアイスクリーム内に従業員が横たわりその様子を撮影、Twitter 上に写真を掲載したところ、ネット上に拡散し、チェーン本部がお詫びを掲載し、店舗は閉店となった。このアイスクリーム事件をきっかけとして、主に小売店や外食店で従業員たちが不衛生な行動をやはり Twitter などの SNS に掲載していることがネット上で話題になり、次々と閉店・閉鎖に追い込まれている。主に舞台が Twitter であったことなどから、これらの事象はネット上では俗に「バカッター」と呼ばれており、定期的に炎上している。これらのバカッター事案では、本人達の顔写真が掲載されていたことも理由であるが、実名で登録していたり、在籍学校がプロフィールに書かれていたり、親密にやり取りをしているフォロ

† 大阪工業大学
Osaka Institute of Technology

ワーが実名登録であったりしたことから、比較的短時間で投稿者が絞り込まれ、特定されている。

さらに、2016年には熊本地震の前震直後に熊本市動植物園からライオンが逃げたというデマを Twitter に投稿した神奈川県 20 歳の会社員男性が偽計業務妨害で逮捕された[3]。

ここでは Twitter の炎上事件について取り上げたが、炎上事件自体は 2000 年代の Web 日記の時代から繰り返されており、SNS では会員制の mixi でしばしば「観測」されていた。2007 年には「なぜ『mixi』の炎上日記が次々と発覚するのか？」というネットニュースの記事が作成[4]されている。ただし、Web 日記の時代はインターネットの接続は PC からであり、ある程度のスキルが必要であったこと、また mixi は会員制のため、不特定多数からは閲覧できなかったこともあり、世間一般で大々的に取り上げられることはほぼなかったといつてよい。しかし、Twitter の閲覧には登録は必要であり、気軽に利用できるため、旧来の炎上事件よりも遙かに注目度が高く、結果として前述したようなデマによる偽計業務妨害の立件にもつながっている。

2. 大学生の考えるネットマナーの調査

2.1 調査の目的と方法

筆者が担当する「情報社会と倫理」の授業内にて自由記述によるアンケートを行った。当該授業は電子・通信系学科の専門授業であり、授業シラバスの授業のねらい・概要は次の通りである。「この科目は高等学校の教員免許『情報』のための必修専門科目であり、同時に電子情報通信工学科の専門科目としてもカウントされるものである。現在は高度情報化時代の真っ只中にある。そのような時代における人間の生き方（情報倫理）について考察するとともに、それを支える基盤技術（高度情報化技術）の概要を学習する。」（当該授業シラバスより抜粋）

この授業では、TCP/IP や情報セキュリティといった技術的な内容の他に、いわゆる情報倫理や情報モラルに分類される内容も含まれている。これまで述べた SNS の炎上事件について授業内でも取り上げるため、受講学生がネット上の情報の真偽や、SNS で取りざたされるネットマナーについてどれだけの知識があり、またどのような考え方で使用しているのかを把握するため、数回にわたりアンケートを実施したが、本稿では、Twitter に関するものを対象とする。

2.2 質問項目

次の 2 項目についてアンケートを実施した。

1. Twitter のフォロー外からリプライを行う際に「FF 外から失礼します」と一言添えるマナーがあるが、これについてどう思いますか。

2. 他人の tweet を許可なく ReTweet(RT)することを禁止する「無許可 RT 禁止」というマナーについてどう思いますか。

この 2 項目は、第 2 回目の授業でそれぞれ紙を配布して自由記述形式で実施した。また、あくまでこのアンケートは授業参加者の考えを知るためのものであり、成績には一切関係ないことを案内した。

3. アンケート結果

アンケート結果をそれぞれ表 2、表 3 に示す。

表 2 「FF 外から失礼します」結果 (n = 98)

回答	人数
不要である	65 (66%)
遵守すべき	10 (10%)

表 3 「無許可 RT 禁止」結果 (n = 98)

回答	人数
不要である	75 (77%)
遵守すべき	4 (4%)

このアンケートでは、それぞれについて不要なのか、遵守すべきか、をなぜそう考えるのかについても併せて自由記述させたが、曖昧な文章であったり、Twitter についての知識が不足していたりしたため、どちらとも取れない回答もあった。そのため、筆者が回答を一読した上で、不要あるいは遵守すべきと判断できたものをカウントした。この回答を元に考察を行う。また、両者ともに不要と回答した学生が半数以上であったが、FF 外から、無許可 RT ともに遵守すべきと回答した学生は 1 名、また両者ともに「内容による」と断っているが、やはり遵守すべきと回答した学生が 1 名いたことを追記する。

次に、学生の回答から「遵守すべき」に肯定的な自由回答を挙げる。

- その行いが他者を不快にすることだったり、自分が不快になるかもしれないようなことは自重すべき。
- 日本人の性質として最低限のマナーを守ろうとしている所から出てきたものなので遵守すべき。
- 知らない人からいきなり返信などされるのは怖い
- 自分たちの会話に急に他人が入り込むのは、現実の世界ではおかしいこと。
- 内輪ネタや特定の誰かについて言及したツイートに知らない人が RT やリプライしているのは変だと思うことがある
- 急に他者から介入されたら不快に思う人や怖いと感じる人もいると思うので、書いておくことでそれを緩和できる。

- 自分の知らない人にも見られることを前提とするべきだが、FF 外から、をつけるだけでいざこざが起きないのならば手間もかからないのであってもいいと思う。
- 礼儀としては良いと思う。この言葉が書いているとこの人は悪い人、変な人ではないと思うことができる。

同様に、「不要である」という主旨の回答を挙げる。

- (他人からのリプライや無許可 RT など) それが起こる前提で利用するべき。
- どうしても嫌なら鍵をかける。「マナー違反だ」とこのルールを押しつけてくる人間とは自分のために関係を持つべきではない。
- その行いが他者を不快にすることだったり、自分が不快になるかもしれないようなことは自重すべき。
- ネットを扱うにあたり、ある程度の知識を得てから活用するべき。
- 「FF 外から失礼」してもよい。Twitter はそういうものではないか。
- 嫌なら、Facebook や LINE をやった方が絶対幸せになれる。
- FF 外から、をつけるのがマナーというのは違うんじゃないか。
- ネットに載せた以上は誰かに何かを言われることは覚悟しておくべき。
- 外出中に第三者に道を尋ねるときに「あなたとは友達ではありませんが失礼します」と先に言うのか？ ありもしないマナーを作り、そのマナーに流されやすい人たちが形成している文化だと思う。
- インターネットという対等な立場でものを言える場では、そこまで失礼なことではない、そういう文化に流されているだけ。
- 自分は FF 外にリプライを送るのは申し訳なさがあるのでしないようにしている。送られてくるのはまったくかまわない。
- (FF 外からは不要であるが) しかし FF 外から、と始めに付け加えていると礼儀正しいと感じる。
- 許可なしでは RT して欲しくないことをつぶやく人が悪い。
- そんなことを考えていることが気持ち悪い。ネットに書いた以上全世界から見られる。
- 違和感があり、おかしいことだと思う。
- しかし、FF 外からの突然のリプライを送る先に相手を不快にさせるようなリプライは twitter の利用規則に反するので気をつけなければならない。
- 自分の知らない人にも見られることを前提とするべきだが、FF 外から、をつけるだけでいざこざが起きないのならば手間もかからないのであってもいいと思う。

- そもそも知らない人たちに向けてつぶやいているのだから、知らない人からコメントがきても文句が言えない。

4. 考察

4.1 FF 問題の初出

ここで、「FF 外から失礼します」という「マナー」は、いつから用いられているか、このいわば「FF 外問題」についてネットサービスの togetter のサービス元であるトゥギャッターまとめ編集部自らが行った調査を紹介する。まとめ編集部は定期的に様々なネットに関する調査を行っているが、この「FF 外問題」の初出を調査し、2017 年 3 月 1 日に togetter まとめ[5]として公開した。この調査では、フォロー外からリプライを行う際の挨拶として、1) フォロー外から失礼します、2) フォロワーの外から失礼します、3) FF 外から失礼します、と変遷してきたことが明らかになっている。(表 4 参照)

表 4 togetter による調査結果

表現	初出
フォロー外から失礼します	2009 年 5 月 23 日
フォロワーの外から失礼します	2010 年 1 月 15 日
FF 外から失礼します	2012 年 10 月 30 日

Twitter は 2006 年 7 月からサービスを開始したが、この時点では英語によるサービスであり、日本ではほとんど注目されていなかった。その後、2008 年 4 月に日本語化されたが、日本語化される以前にアーリーアダプタ層が Twitter を利用しており、まだ一般的ではないにしても新しいサービスとしては知られてた。例えば IT ジャーナリストの林信行(アカウント名@nobi)や津田大介(アカウント名@tsuda)は両名ともに 2007 年 4 月に登録し、利用開始している。前述した togetter まとめでは、「フォロー外から失礼します」の初出は 2009 年とされているが、2011 年ですら、内閣府の青少年のインターネット利用環境実態調査[6]によると高校生のスマートフォン所持率は 3.9%であり、まだまだスマートフォンが普及しているとは言い難い。第 1 節で述べたように、スマートフォンが一般に広く普及するのは 2011 年からであり、また 2011 年にリリースされた iOS5 に Twitter のクライアント機能が標準機能として統合されたため、Twitter の利用がより手軽になった。以上から、2011 年からは Twitter を始める環境がより手軽になり、これまで Twitter に縁が無かった人も、iPhone からの利用が容易になったため、Twitter を利用し始めたのではないかと推測する。詳細については次の 4.2 で述べるが、スマートフォンを所持することで Twitter を始めたユーザは、比較的ネットサービスに疎く、「FF 外から失礼します」に代表される Twitter マナーを守っているのではないかと筆者は考えている。

4.2 なぜ「FF 外から失礼」するのか

そもそも、なぜ Twitter では「FF 外から失礼」するのか。Google で「FF 外から失礼します」を検索すると、関連ワードとして「いらない」「うざい」など否定的な言葉が並び、ネット上では不要と考えられていることが推測できる。また、筆者個人の考えとしては「共通点を持った知らない人との対等なコミュニケーション」こそがネットの醍醐味の1つであるため、わざわざ「FF 外から失礼します」と変に敷居を高くするような、また Twitter の 140 文字制限をさらに縛るようなフレーズをわざわざ付け加えるということが理解しがたい。朝日新聞は 2017 年 12 月 5 日付けのネット記事[7]でこの「FF 外問題」について取り上げ、次のように書いている。(一部引用)

この一文には、古くからのユーザーを中心に、「ツイッターは知らない人がつながるためのもの。FF 外から声をかけるのは失礼という発想はおかしい」という意見がある。正直に言うと、私も最初はそう思った。ただ、この言葉を使う場面と理由を考えると、合点がいった。

「失礼します」と書くのは、若いユーザーに多い。10～20 代のツイッターの使い方は、友人との会話や趣味のつながりなどが主で閉鎖的だ。ある男子高校生は「FF 外の人への投稿で『おっ』と思うものはあるけど、議論に巻き込まれたくないからリプ(返信)は送いません」と話す。(略)

自分達が普段、FF 内としかやりとりをせず、FF 外のどんな人か分からぬ他人に話しかけられると驚いてしまう。だから、FF 外に声をかける時は、「私は礼儀をわきまえた人間です」と伝える目的で、「失礼します」と書くのだ。

この記事執筆した記者は「FF 外から失礼します」は不要という立場であるが、10 代～20 代のユーザーが友人などとのやり取りで閉じているため、相手もそうだろうと推し量り、その上で、初対面の人と会うときのように「初めまして」の感覚で使うのだろうと肯定的に捉えている。

また、サブカルチャーについて古くからネットで発信しているシロクマ先生こと熊代亨は、2017 年 10 月 15 日のネット記事[8]で、次のように論じている。

複数のアカウント、複数のアプリを使い分けることによって、SNS 時代のネットユーザーは、オープンな「ソト」のコミュニケーションと、クローズな「ウチ」のコミュニケーションを的確に使い分けることができます。(略)

Twitter などの SNS、スマホが普及して以来、インターネットを経由したコミュニケーションは、世の中の大多数が、日常的に行うものとなりました。

それ以前にもガラケーを使ってローカルなコミュニケーションをする人、パソコンを買ってブログを書く人はいいましたが、日本のインターネットが本当の意味で“みんな

が繋がらうメディア”となって、そこで広がる声が“世論”として無視できなくなってきたのは、2010 年代以降です。そう、インターネットは、いつの間にか“世論”をかたちづくる場になったのです。インターネットが“世間”になったということでもありますし、“リアル”と地続きになったということでもあります。

この熊代の論を筆者は次のように読み取った。古くからネットに親しんできたユーザ(従来型ユーザと呼ぶ)は、現実社会とネット社会は完全に切り離せないにしても、図 1 のように一定の距離があり、両者は別物と考えている。ネットでは現実社会の性別や年齢、肩書きなどは関係なく皆平等な立場で公平な議論ができる。相手への敬意は必要だが、過剰なまでの装飾は必要なく、ネット上に公開された情報は他人から言及されることがあって当然と考えている。また、ネットは好きなときに接続すれば良いのだから、E-mail や SNS のメッセージをいつ送信してもかまわないし、相手がそれらを受信しているとも限らないし、読む保証もない。さらに言えば、それらのサービスはいつか突然終わってしまうかもしれない、とも考えている。

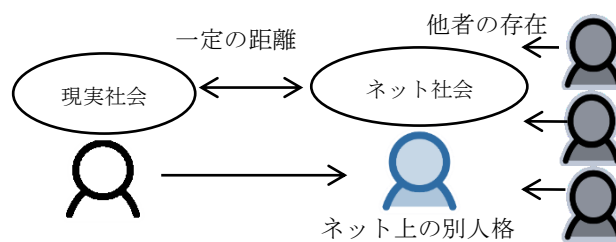


図1 従来型ユーザの考え方

一方、近年のユーザは(地続き型ユーザと呼ぶ)ネット社会は現実社会の延長上であり、図 2 のように両者は限りなく近い。まったく知らない他人とのコミュニケーションはともすれば避けるべきものであり、SNS などで他人の投稿に対して何かアクションを取るときは、まず枕詞として挨拶のような定型句を付与するべきだと考えている。



図2 地続き型ユーザの考え方

ここで、先ほどの学生の回答について考えると、「FF 外から失礼します」を不要と考えたり、「無許可 RT 禁止」に

についても不要と考える層は、従来型ユーザに当てはまり、逆に「知らない人から返信されると怖い」「FF 外から、をつけるだけでいざこざが起きないのならば手間もかからないのであってもよい」と考える学生は地続き型ユーザに当てはまるであろう。また、第1節で取り上げたパカッター事件のユーザは、現実社会とネット社会がリンクすると考えていないという点では従来型ユーザに近い点があるが、しかし「自分の Twitter のタイムラインはフォロワーである知人以外は見えていない、あるいは見るができない」と思い込んでいる点もあり、どちらかというと「ネット社会の言論が現実社会に影響が及ばない、ネット上の情報から自分や知人を特定・介入できない、と考えている地続き型ユーザ」であると言える。（図3 参照）

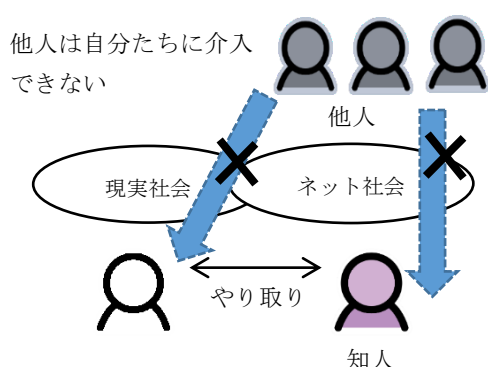


図3 地続き型ユーザと他人

なお、従来型ユーザでも Twitter ではトラブル回避のためにユーザ名やプロフィールに「FF 外から失礼します」と書いている場合もある。実際に Twitter の検索で「FF 外から失礼します」で検索すると、図4のようにユーザ名に含めたり、プロフィールに書き加えたりしているユーザが多数ヒットする。また、「FF 外から失礼するゾ」とこの FF 外問題を茶化しているユーザも同じくヒットする。Twitter において、FF 外問題はある種の避けて通れない問題のように思える。



図4 「FF 外から」をユーザ名に含むアカウント例

4.3 「無許可 RT 禁止」の無意味さ

ここまで主に「FF 外から失礼します」について論じてきたが、「無許可 RT 禁止」は比較的単純な話である。

Web 上に公開されたコンテンツは、作成者に著作権があるため、作成者の許可無く配布できない。しかし、Twitter では、サービス利用規約[11]（2018 年 5 月 25 日発効版）において「コピー、複製、処理、改変、修正、公表、送信、表示および配信をツイッター社に無償で承諾し、ツイッター社や他の利用者に対してツイートを世界中で閲覧可能とすることを承認する」（筆者による要約）と定めている。そのため、あるユーザのツイートを許可無く RT することはまったく問題がない。もし自分のツイートを RT されたくなければ、フォロワー同士しかツイートを閲覧できない鍵アカウントにするしかない。鍵アカウントへ移行すれば、フォロワー同士のみツイートを閲覧できなくなり、鍵アカウントのツイートは RT できなくなる。

4.4 類似の問題

前述した2つのユーザの違いについて、筆者はかつてよく言われていた携帯電話のキャリアメールにおけるマナー問題と類似している点があるのではないかと考えた。

インターネット初期からコミュニケーション手段として使用されてきた E-mail の最大の利点は、いつでも送受信できることである。基本的に E-mail は PC でしか利用できないサービスだったが、1999 年から i-mode をはじめとした携帯電話向けサービスによって、携帯電話でも E-mail の送受信が可能になると、「深夜・早朝のメール送信はマナー違反なので控えるべき」「携帯電話のキャリアメールは受け取ったらすぐに返信するべき」という E-mail の利点と相反するマナーが形成された。特に、前者の送信時刻の問題については、ネットの質問掲示板で、2005 年に相談[9]があり、さらに 2010 年にも同様の相談[10]がある。この「深夜・早朝のメール送信はマナー違反なので控えるべき」は、「深夜・早朝に携帯メールの着信音で起こされるのが迷惑」という問題に行き着く。この問題の対策は、携帯電話の持ち主が、1) 着信音を無音にする、2) マナーモードに切り替える、3) 携帯電話本体の電源を切る、などで解決されるので、相手に配慮を求めるのではなく自らが行動することで解決できるのだが、相手の配慮を執拗に求めるあまり、ネットサービス本来の「いつでもチェックして、いつでもリアクションを取れる」という利点が活かされないため、マイナスでしかない。ここまで述べてきた Twitter における諸処の問題は、サービス利用規約によって自由に他人のツイートに対してリプライや RT が可能であるが、それをマナーの問題で制限しようとする点において、この携帯メールのマナー問題と類似した点が見受けられる。やや極論かもしれないが、PC 主体で発展した E-mail や Twitter などのネットサービスは、携帯電話やスマートフォンといったより身近なネ

ットデバイスの登場により、マナーに縛られ、旧来の自由な活動ができなくなってしまった。

5. まとめと今後の予定

本稿では、Twitterの「FF外から失礼します」「無許可RT禁止」といったマナーに焦点を置いたが、このマナー問題は、インターネット上での他人とのコミュニケーションに対する考え方の違いが根本にあるように考えられる。前節で述べたように、従来型ユーザは「FF外から失礼します」と添えること自体を無意味に捉えるどころか、ネット上でのコミュニケーションに対して水を差すような「奇妙なマナー」と捉えている。一方地続き型ユーザは、ともすれば「FF外から失礼します」と一言添えることを丁寧なマナーであり、かつ円滑なコミュニケーションと捉えているとも言える。

Unixのオペレーションでは、投入されたコマンドが成功すれば何も出力されず、問題があるときのみエラーメッセージが表示された。これは、限りあるコンピュータリソースを有効に使用するという思想・美学であるが、旧来のユーザはこの思想の影響もあり「余分な情報はネット上に流さない」ことを評価する傾向にある。Twitterにおいて「FF外から失礼します」という丁寧かもしれないが冗長な文字情報を付加する行為は、やはり1ツイートにつき140文字という制限の前には「余分な情報」であり、この行為を単に「丁寧だからよい」と評価するのは難しい。しかし、FF外から「遵守すべき」と回答した自由記述のうち、「知らない人からいきなり返信などされるのは怖い」「自分たちの会話に急に他人が入り込むのは、現実の世界ではおかしいこと」「内輪ネタや特定の誰かについて言及したツイートに知らない人がRTやリプライしているのは変だと思うことがある」といった意見は、ますますSNSと現実社会がボーダーレス化している現代社会において、耳を傾けるべき価値もあり、「SNS上でも現実の社会と同じく相手を尊重し、ヘイトスピーチなどの相手を傷つける発言は控えましょう」といったネットマナーの観点からはむしろ望ましい行為なのかもしれない。

本稿で取り上げたアンケートは「今の大学生はネットマナーについてどのように考えているのだろう」という筆者の単純な思いつきから実施したものであり、明確な選択肢を用意したアンケートではなく、「どう思うか」を記述式で回答させたため、回答内容がはっきりしないものも多かった。また、授業内でアンケート結果を踏まえた上での議論にまで発展させる余地がなかったため、アンケート結果からの考察はあくまで筆者の考えでしかない。筆者は2018年度も同じ授業を担当するため、より学生の意識を明確に読み取れる形式でのアンケートを実施し、その結果を元にした議論も実施して、ここで提唱した従来型ユーザと地続き

型ユーザについてより深い検証や考察を行う予定である。

謝辞

本稿は、2018年4月29日に開催された大阪プログラミング・情報教育研究会で著者が発表した「FF外から失礼します～大学生のSNS利用と情報倫理（仮）」の内容を改稿したものです。前稿において、参加者の皆様からさまざまなご意見をいただき、本稿の執筆に至ったことをこの場を借りて感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 総務省：平成29年版情報通信白書，（オンライン），入手先〈<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/index.html>〉（参照2018-06-02）。
- [2] MMD研究所：高校生Twitter利用者の52.7%は「実名利用」，実名利用している高校生のうち41.1%は「すべての人」に情報を公開，（オンライン），入手先〈https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1703.html〉（参照2018-06-02）。
- [3] 熊本日日新聞：「ライオン逃げた」デマ投稿の男逮捕 全国初，（オンライン），入手先〈<https://this.kiji.is/128650230205220348?c=92619697908483575>〉（参照2018-06-02）。
- [4] livedoor NEWS：【トレビアン】なぜ『mixi』の炎上日記が次々と発覚するのか？，（オンライン），入手先〈<http://news.livedoor.com/article/detail/3424175/>〉（参照2018-06-02）。
- [5] togetter：初めてFF外から失礼したのは誰!? #最初にツイートしたの誰だ 【第2弾 FF外から失礼します・クソリブ編】，（オンライン），入手先〈<https://togetter.com/li/1085725>〉（参照2018-06-02）。
- [6] 総務省：平成23年版情報通信白書，（オンライン），入手先〈<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h23.html>〉（参照2018-06-02）。
- [7] 朝日新聞：（ネット点描）「FF外から失礼します」 若者たちの礼儀の形，（オンライン），入手先〈<https://www.asahi.com/articles/DA3S13259141.html>〉（参照2018-06-02）。
- [8] 現代ビジネス：「FF外から失礼します」に違和感を覚える人は、完全に遅れている，（オンライン），入手先〈<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/53027>〉（参照2018-06-02）。
- [9] OZmail：携帯宛メールは何時でもOK?，（オンライン），入手先〈<http://www.ozmall.co.jp/bbs/1-533276.aspx>〉（参照2018-06-02）。
- [10] 教えて!goo：深夜のメール送信はマナー違反なんですか？，（オンライン），入手先〈https://oshiete.goo.ne.jp/qa/5891574.html?from=osw_excite〉（参照2018-06-02）。
- [11] Twiteer：利用規約とプライバシーポリシーの改定，（オンライン），入手先〈<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/update-privacy-policy>〉（参照2018-06-02）。